	音楽研究会　　部会記録				
日時	平成３０年１０月３日（水）　１５：３０～１６：４５				
部会名	鑑賞部会			主任	山田　万里（大岡小）
参加数	９名	司会	山田　万里（大岡小）	記録	稲田　浩子（常磐台小）

鑑賞部会テーマ

音楽のよさや面白さ、美しさを自ら感じ取り、聴き味わう鑑賞活動

～「聴き味わう」子どもの姿を目指して～

「自分にとっての価値」を見い出し、聴く前と後で変容が見られる姿　（今年度　部会が目指す子どもの姿）

（研究内容）

○実践提案Ⅱ（授業研事前実践）

提案者：望月　竜太先生（本町小）

第１時　◎目標　　箏や尺八の音色や奏法の特徴を感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴く。

第２時　◎目標　　楽曲の構成、かけ合い、速さの変化などが生み出す曲想やその変化を感じ取って聴く。

〈展開〉

【Ａ案】（第１時）・「はじめ　なか　おわり」で自分の気に入った部分、心に残った部分を選ぶ。
・自分の選んだ部分を中心に聴き、付箋に気付いたこと、感じたことを記入する。
（第２時）・前時に選んだ部分でグループをつくり、付箋を元にグループで話し合いながら、箏と尺八の旋律の関わり合いなど楽曲の特徴に注目したり、情景を想像したりして聴く。

【Ｂ案】（第１時）・「なか」の部分に着目して、詳しく学習していくために、付箋に気付いたこと・感じたことを記入する。
（第２時）・「なか」の部分について、グループに分かれ、付箋をもとに話し合いながら、箏と尺八の旋律のかかわり合いなど楽曲の特徴に注目したり、情景を想像したりして聴く。
・全体で考えを共有しふり返りをする。

※後日　◎実際に箏とリコーダー（尺八の代わり）による「春の海」の演奏を聴く。
箏の奏法や楽器について詳しく知る。

見られた「聴き味わう」子どもの姿

・学習を通して「聴き方が深まった」と答えた子どもは３０人中２５人いた。
子ども自身が「変容した」と感じたところ（子どもの学習カードより）
→　一曲にたくさんの工夫がつまっていてすばらしいと感じた。
曲をさぐるといろいろわかって面白かった。
・グループの仲間と学習することでより（曲に対して）関心をもつことができた。
・つぶやきの中に知覚的な気付きがあったり、情景について意見を深めたりしている。
・気づきや思いがあっても、発言が少ない子もグループ内で輝く場面がある。

〔共通事項〕を窓口にした楽曲分析・教材研究について

選択した〔共通事項〕**音色　旋律　呼びかけとこたえ**

・楽器の奏法や音色に迫る時間が少なくなってしまった。
・呼びかけとこたえや旋律の重なり方には気付きやすい楽曲。（楽譜も根拠）

１時間の中での教師の手立てや働きかけ等

・学習形態　各グループでの鑑賞　　トラック分けしたＣＤ

→トラック分けしたＣＤで、気になった部分を何度も聴くことができた。

話し合いの内容の充実、まとめに、やや課題がある。

・学習ツール　ワークシート

楽譜の上から試行錯誤しながらマーカーで書き込める「まなボード」（重点研究で使用）

・板書

初発の感想をまとめた（１時）ものを残し、２時の学びを加えて記すことで、学びの深まりが可視化される。

表現領域との関連や学年等の系統性、カリキュラム・マネジメントの視点

国語：一昨年度まで重点研究　４年　「一つの花」他　グループで全文シートに書き込みながら学習

総合的な学習：昨年度より本校重点研究　　グループで考えをまとめ、全体に発表する学習方法

《実践提案を受けて、部会で話されたこと》

・全体で進めるより、グループだと発言が多くなる。グループ活動は２０分間

・子どもたちは、楽譜があったこともあり、旋律や旋律の重なりに注目していた。

・箏と尺八の二重奏、白鳥とは違った二重奏だと気付く子もいた。

・尺八の音　息が混ざった音だと感じる子もいた。

・情景について想像したことを（日の出から、日の入りだと感じたなど）グループ内で話していた。

・〔共通事項〕の選択が大切だが、難しい。

・楽器のことを知る時間が捻出しづらい。

・１時の宮城道雄については、別の時間にすることも、考えられる。

・後日、ゲストティーチャーと教師による演奏（朝の時間で）生の演奏のよさを十分感じていた。

提案者：曳田　裕子先生（白幡小）

第１時　◎目標　　「春の海」を聴いたり楽器の演奏の仕方を体験したりして、箏と尺八の音色の特徴に興味関心をもつとともに、音色を手掛かりに曲のかけ合いの表現のよさを感じ取って聴く。

第２時　◎目標　　楽曲の表す情景と音楽を形づくっている要素とのかかわりを感じ取り、楽曲全体の曲想を味わって聴く。

見られた「聴き味わう」子どもの姿

・音楽を形づくっている要素と、感じ取ったことを結びつけながら聴き、言葉で表現する姿。

・ペットボトルを吹く体験から、尺八の音色の特徴と演奏の仕方を関連づけて話す子どももいた。

●課題　最後に曲全体を聴く場面で、ぐっと曲に入り込んで聴くような姿が見られなかった。情景をもっと豊かに想像したり、聴く前に共有したりする必要があったと感じた。

〔共通事項〕を窓口にした楽曲分析・教材研究について

選択した〔共通事項〕**音色　旋律　反復　呼びかけとこたえ**

・箏と尺八の音色が、たいへん特徴的。実際に音色を聴く活動を取り入れることで、箏の音色をしっかりととらえられる。音色に着目することで、「なか」の部分のかけ合いにも気付くことができる。

・多くの子が耳にしたことがある曲なので、旋律をとらえやすい。口ずさんだり、旋律線を書いたりするとなめらかな旋律やそのかかわり合いを聴き取ることにつながると考えられる。

１時間の中での教師の手立てや働きかけ等

・ペットボトルを用いた活動により、尺八の音を出す難しさを理解でき、映像での奏者の口元や首の使い方など、演奏の仕方と音色の関係に着目する子どもの姿につながった。

・宮城道雄の生涯など、楽曲が作られた背景を知ることで、関心を高め、聴き深めることができた。

・ワークシートの記入では、聴き取った音楽的な要素を「キーワード」として共有したため、要素と感じ取ったことを意識的に結びつける子どもも多くいた。

表現領域との関連や学年等の系統性、カリキュラム・マネジメントの視点

・尺八とリコーダーの音色を比較することなどが考えられる。

→奏法の違いから生まれる音色の違いをより感じ取ることができるのではないか。

・４年生の「さくらさくら」で箏の音色に十分親しんでおくことで、箏の音色を手掛かりにして、尺八の音色をとらえたり、楽曲の構造や特徴をとらえたりすることにつながると考えた。

《実践提案を受けて、部会で話されたこと》

・曲の背景、作曲者について知ることは、曲を聴いたとき、情景を想像したり、ふくらませたりすることにつながる。

・曲の構造をとらえやすい教材である。

・学習のまとめ、聴き取った音楽的な要素を「キーワード」として共有すると、子どもたちがワークシートを書くときの手掛かりになる。手掛かりがあった方がよい。

・

○　研究授業の指導案構想　　（澤　　日吉南小）

・楽曲の構造を全体で共有してから、想像したことや感じたことについて学習をすすめたい。

・全曲　→部分　→全曲　という聴き方をし、聴き深めていきたい。

・学習形態、一人学び→　ペアか３人組　→全体の流れで考えているが、時間配分が難しい。

・体験・実感することから、聴くことにつなげていきたい。

・本時は、Ａ　Ａ’の部分を中心に聴く展開。Ａを聴くことでＢとの比較になるのではないかと考えるが、どうか。